

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

石川魂
 ○最後まで粘り強く頑張る子(知・体)
 ○自分や友達の思いを大切に協働する子(徳)
 ○自分たちのまちを愛する子(公・開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

＜自分づくりに関する力＞
 小・中9力年で4つの資質「自己有用感・学
 ぶ意欲・コミュニケーション能力・規範意識」
 の定着を図ります。

具体化した資質・能力

対話を通して新たな考えを得る力
 思いや願いを実現しようとする力
 他者と協力して取り組む力

中期取組目標

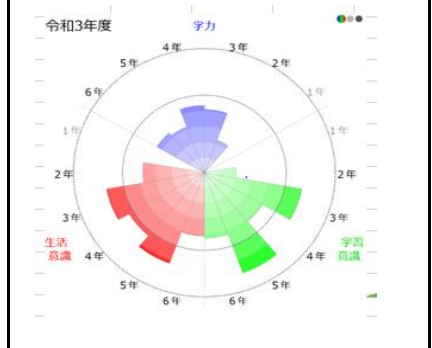
○基礎・基本の定着と確かな学力の向上を目指し、「自ら課題を見つけて解決ができる子ども」を育てます。
 ・思いや願いをもって、主体的に学習に取り組み、その成果を実感できるようにして、自己有用感を高められるようにします。
 ・学習の基礎基本の定着を図り、子どもたちが自信をもって取り組むことができる姿勢を育てます。
 ・対話的な学習を通してコミュニケーション力を高めることで、自分のことを豊かに表現したり、相手にさらに深く関わろうとしたりする心情を育てます。
 ・健康的な生活を送るために、体力の向上を図り、日常生活の中で運動に親しむことができる活動を充実させることを目指します。
 ・自分たちのまちに進んで関わろうとする態度を育て、自分たちのまちのよさを感じ取り、まちを愛することができる子どもを育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①朝学習の時間や検定テストの実施等を通して、漢字・計算等の基礎的な知識・技能の習得に努めます。②自ら学ぶ力を育てるため、調べ学習など自主学習の推進を行います。③教師の授業力を高め、「話す・聞く」力をもとにしたコミュニケーション能力を育成し、協力して考える力を高める授業を工夫します。
担当	重点研推進委

学力向上に関わる本校の状況

令和3年度実施の横浜市学力・学習状況調査等から児童の実態を把握すると、学力は、全体的に横浜市の平均を下回っている。特に、算数科においては、その傾向が大きい。
 主な教科では、国語科は、語彙力、目的や必要に応じて文章を書いたり、読み取ったりする力の育成が課題である。算数科では、正しく計算する力や、図や表を使って立式するなどの考える力の育成が課題である。社会科では、基本的な知識や、地図やグラフ等の資料を読み取ったり活用したりする力の育成が課題である。理科では、観察や実験の結果から、わかったことを記録するなど科学的な考察する力の育成が課題となっている。



今年度の目標

対話的な学びを各教科の授業を通して重ねていくことで、コミュニケーション能力を育成する。また、主体性を支えるための授業づくりと、基礎基本の定着、充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 主体性を育むための授業づくりと、基礎基本の定着、充実
- ・学習が自分事になるように、目的、内容、対象を十分に検討できるようにする。
- ・見通しをもち、自らの学習の在り方を調整しながら課題解決に向かうようにする。
- ・朝学習の時間を、漢字、計算など、明確に位置付ける。
- ・購入する補助教材は、子どもたちの自己肯定感を育むことを意識し、系統性を重んじて選定する。
- ・学校独自の算数の補助教材を作成し、進度別に進んで取り組めるようにする。
- ・算数の少人数学習や、特別支援教室等を利用して子どもの学びの場を工夫したり、日々の授業、家庭学習における学びを着実に積み重ねたりして、基礎学力の向上を図る。
- ・学校独自の漢字検定の実施を通して、漢字に親しむ。
- 対話的な学びの充実
- ・国語科の研究を通して、言語活動の充実を図る。
- ・話型を提示して、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

下半期

- 対話的な学びや基礎学力の定着、充実を継続するとともに、それらの力が備わったか検証していく
- ・年間2回のアンケートを実施し、アンケートにおける各項目でどのような変化があったかを検証する。
- ・アンケートの分析から得られた成果や課題を職員間で共有、改善指導に生かす。
- ・横浜市学力・学習状況調査の結果を踏まえて、指導に生かす。
- これらを確実にを行うためにも、年度当初に立ち上げた、重点研推進委員会とともに学力向上委員会連携を図るようになる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学校生活を通して、豊かな人間関係を結び、自尊感情を育む指導を充実させます。②教師が率先してあいさつや丁寧な言葉遣い、できたことを認める声かけ等を心がけることで、相手を思いやり、互いを認め合う力を育てるとともに、いじめを絶対に許さない心の育成を図ります。
担当	児童指導人権委

豊かな心に関わる本校の状況

令和3年度の横浜市学力・学習状況調査の分析によると、学習意識と生活意識では、学年による意識の高さの違いが大きい。学習の意識が高いと生活意識も高い傾向があり、その逆(意識の低さ)も同じである。全体的には市の平均に比べ、概ね自己肯定感が高い傾向にある。
 教師や子どもの声掛けには素直に応じたり、受け入れようとしていたりして、それをすぐに実行しようとしている子どもが多い。一方で、家庭環境に課題があること等の理由から、自分を肯定的に受け止めることができなかったり、周りに対して攻撃的になってしまったりする子どももいる。

今年度の目標

自尊感情を高め、自分自身を肯定的に受け止めることで、自分に自信をもち、相手に関心をもち、協働して取り組むことのよさを大切にできる心情を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 子どもたち一人一人が自尊感情を高める
- ・教師は子ども一人一人をよく見取り、ありのままを受け入れる共感的な態度で接し、子どもの成長や変容には、進んで価値付けし、自信をもてるようにする。
- ・朝のあいさつ活動を促し、円滑なコミュニケーション力を育てる。
- ・道徳科を要とした道徳教育の充実を図り、各学級の道徳科の授業を公開したり、教員間で見合ったりする。
- ・各教科や様々な教育活動において、振り返りの時間を保障し、自らの成長や変容を感じることができるようになる。

下半期

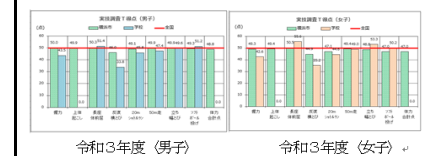
- 相手意識をもち、協働して取り組むことのよさをあじわう
- ・宿泊体験学習を通して、豊かな体験活動や学びの機会を保障する。
- ・縦割り班やペア学年での活動の充実を図り、学年を越えて進んで関わりをもととする気持ちを育む。
- ・生活科、総合的な学習の時間や、見守り隊の方々との交流を通して、まちの人との関わりを密にすることで、自分たちが地域の構成員の一人であることや、自分たちを見守ってくれる人たちの存在に感謝の気持ちをもてるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育の時間をはじめ、運動会や校庭での体育的活動、休み時間等を通して、多くの動きや遊び・ゲームを楽しむ心を育てます。②体育、保健、給食の各委員会の活動を充実させ、児童の規則正しい生活習慣と健康への実践力を高めていきます。
担当	体育・食育・安全部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)体育・健康に関する実態
 令和3年度実施の新体力テストのアンケートから児童の実態を把握すると、
 ・朝食を、毎日食べていない子どもがいる。1週間の総運動時間を比べると毎日食べない子はそうでない子に比べ約半分であった。
 ・運動の習慣は高く、コロナ前と比べ、以前より運動をする時間が増えた・変化はないの割合が全体に高かった。
 (2)体力の概要と要因の分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)
 新体力テストから反復横跳びの結果が全国や市を下回っている。このことから、体育の授業や体育的行事の中で、体幹を強化したり、敏捷性を高めたりする活動を取り入れる。他の種目も平均と同様の数値となっているので、児童の実態を把握し、体育科学習における準備運動や主運動を中心に、運動能力の向上や運動の習慣化を目指していきたい。



今年度の目標

規則正しい生活習慣と健康への意識を高め、進んで健康や体力の向上に励む力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 体育科・保健体育科での取組
- ・体育科・保健体育科では、「体づくり運動」の領域を重点領域とする。「多様な動きをつくる運動」では、様々な動きの中で、敏捷性を高めたり、体幹を強めるために体のバランスをとる動きや力試しの動きを指導する。「持久走」では、自分に合ったペースを見つけ、長く走れるよう指導し、基本的な動きの定着に努める。
- 他教科での取組
- ・家庭科では、栄養バランスのよいメニューを考えたり、食事のマナーを意識したりするなど、日ごろの食生活を見直すようにしていく。
- ・道徳など全教育活動において、目標に向かって、最後まで取り組むことの良さを大切に指導していく。
- ・保健美化委員会では、児童の健康への意識を高めるような活動を工夫して行う。
- ・運動会や新体力テストで、自分の運動能力を把握し、今後の体育科・保健体育科での活動につなげていく。

下半期

- 健康で安全に生活する力を育む
- ・保健活動の充実を図り、委員会が中心となり、心身の充実には、心と体が相互にどう影響しているのかを考える機会をもつようにする。
- ・体育委員会が中心となり、休み時間の持久走を促すなど、健康には適度な運動が大切なことに気付かせるようにする。